

第147期 中間(第2四半期)のご報告
2013年4月1日～2013年9月30日

古河機械金属グループの事業領域 1
株主の皆様へ 2

特集 トップメッセージ 3
古河機械金属グループの事業戦略

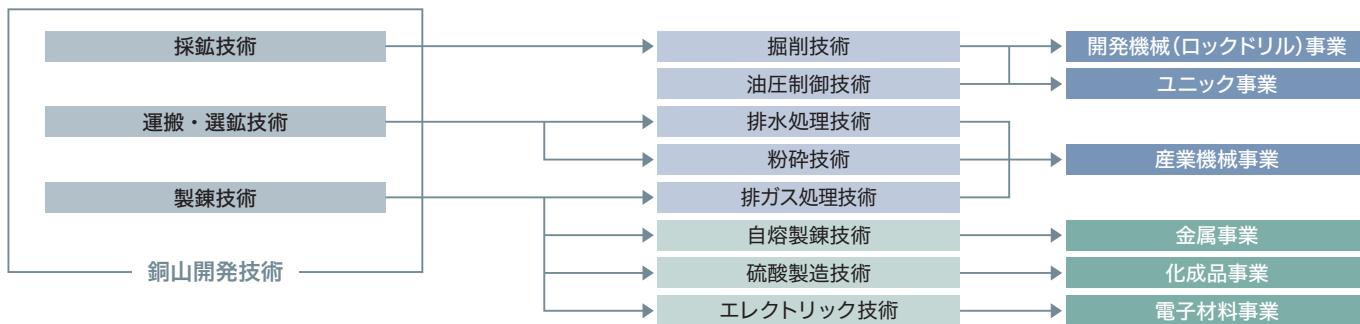
事業部門別の概況 7
財務データ 9
会社概要及び株式の状況 10



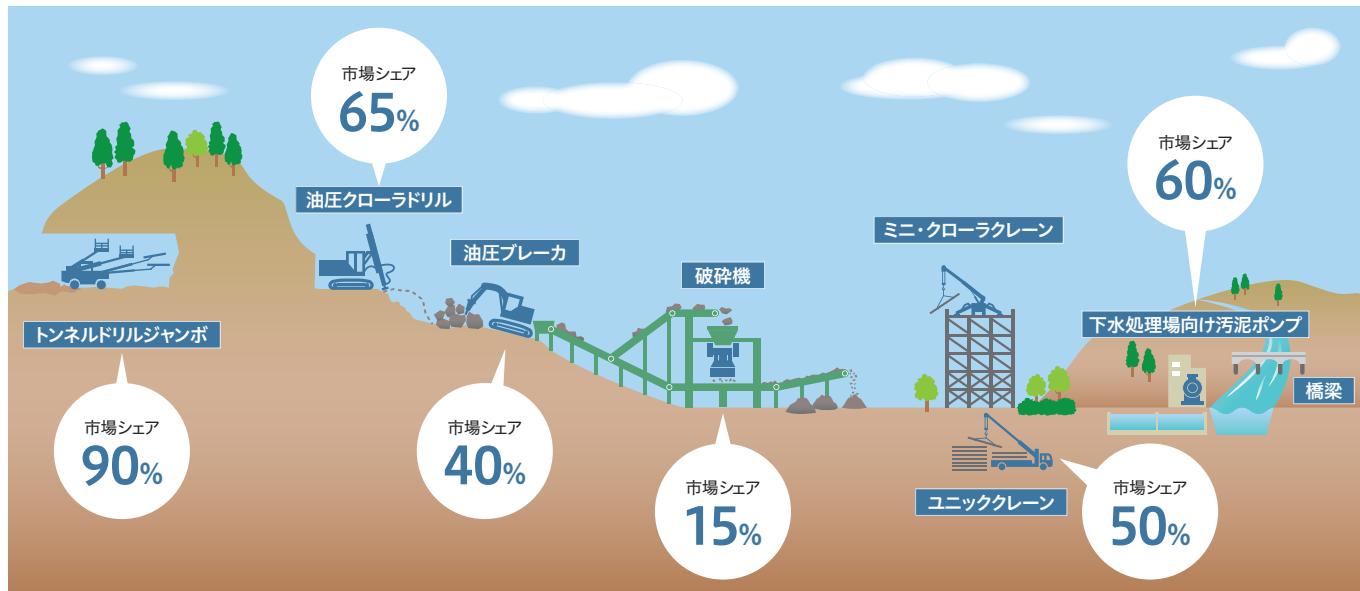
古河機械金属グループの事業領域

1875(明治8)年創業以来、当社は銅山事業を出発点に、常に時代の要請に応えるべく様々な事業を展開してきました。銅山開発で培われた当社のコア技術は長い歳月とともに進化発展し、現在の当社グループの事業領域の礎となっています。事業領域は大きく「機械」と「素材」に分かれ、あらゆる市場に製品を提供しています。

古河機械金属技術の系譜



インフラ整備にかかる当社製品群と国内シェア



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。ここに第147期第2四半期連結累計期間(2013年4月1日から2013年9月30日まで)の決算の概要をご報告申し上げます。

■ 当該期間の経営環境と業績について

当該期間の日本経済は、経済・金融政策の効果などを背景として景気は持ち直しつつありますが、海外景気の下ぶれが景気を下押しするリスクとなっております。

このような経済状況のもと、当社グループの売上高は785億57百万円(対前年同期比47億33百万円減)、営業利益は27億69百万円(対前年同期比14億22百万円増)となりました。売上高については、主として産業機械事業、ユニック事業及び金属事業が対前年同期比増収となりましたが、2012年10月に燃料事業から、2013年3月に塗料事業から撤退したことを主因として減収となりました。なお、両事業の前年同期の売上高は、燃料事業が37億70百万円、塗料事業が76億64百万円、計114億34百万円でありました。経常利益は24億68百万円(対前年同期比21億30百万円増)となりました。特別利益には、受取補償金他8億15百万円、特別損失には減損損失他2億22百万円を計上した結果、四半期純利益は12億56百万円(前年同期は1億13百万円の損失)となりました。

なお、中間配当につきましては、景気動向が不透明なため見送らせていただきますが、2014年3月期の連結業績予想につきましては、売上高は1,600億円、営業利益は57億円、経常利益は45億円、当期純利益は25億円といずれも予想を上方修正しております。

■ 中長期的な戦略について

当社グループは、経営資源を機械事業と素材事業に今まで以上に集中することで、収益力の向上と企業価値の増大を更に図っていく考えです。機械事業においては、国内の復興需要を確実に取り込み、同時に資源国及び新興国需要の変化に対応するべく技術力の強化と更なる海外展開の推進を図っていきます。今後増大する国内外のインフラ、資源開発などの市場でシェア拡大を重要な戦略と位置付けています。もうひとつの中核事業である素材事業においては、電子材料事業を中心とした新素材の開発に注力し、早期の事業化を進めていきます。

株主の皆様には、引き続きご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2013年12月



代表取締役社長

宮川尚久

インフラ関連需要を 確実に成果に結びつけていきます。

Q 現在の状況についてお聞かせください。

今期は、機械事業のうち、産業機械事業は国内復興案件のほか、橋梁、破碎機類が好調で、ロックドリル事業でも復興に



かかるインフラ整備関連の国内需要が底堅く、海外は資源需要低迷が続くものの円安効果が見込まれます。またユニック事業も前期同様好調を維持しています。

グループ全体の売上高は塗料・燃料事業撤退により減収となりますが、営業利益は増益を予想しています。

Q 復興事業に対する古河機械金属の強みを活かした対応についてお聞かせください。

いよいよ今期より本格的な復興事業が動き出してきた感があります。例えば高台移転などの復興市街地整備や、道路・橋梁・トンネル・港湾といったインフラ整備など多岐にわたって計画されています。

当社は元来、国内においてこのようなインフラ整備に関連する製品を有し、縁の下で社会基盤を支えてきました。特殊な技術で高いシェアを持つ当社製品が今後復興事業に多く採用が見込まれるのは、当社が積み重ねてきた歴史と技術、それに総合力があってこそ、と考えています。

Q

既に成果として表れている
 事例はありますか。

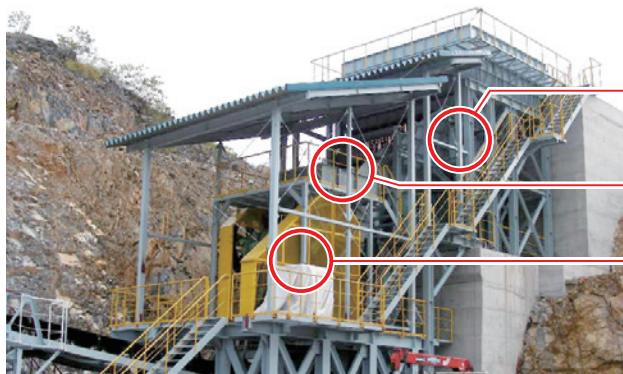
高台移転関連では、岩石の破碎に必要な破碎設備や土砂運搬用コンベア設備を受注しており、破碎機類、ベルトコンベア製品の製造を急ピッチで進めています。また、復興道路・復興支援道路のトンネル工事現場ではトンネルドリルジャンボが稼働中で、今後多数計画されているトンネル工事にお

いても国内唯一のメーカーである当社製品の採用が期待できます。

このほかにも、土木・建設工事に不可欠なセメントや砕石はフル生産が続いており、石灰鉱山や砕石現場では油圧クローラドリルや油圧ブレイカ、破碎機類がこの先長く稼働することが予想され、買い替えや部品需要も見込めます。建設資材の運搬、荷降ろし作業で使用するユニッククレーンも復興事業が進むにつれ稼働台数は増える見込みです。

高台移転関連に使用される製品

高台移転エリアの山を切り開き、そこで出る岩石を破碎する設備



破碎設備

フィーダ、スクリーン、クラッシャなど
 当社の独自技術が組み合わされています。



エプロンフィーダ
 原石を定量で
 引き出す供給機。



スカルパースクリーン
 原石を泥やズリと
 岩石に篩分けする機械。



ジョークラッシャ

数百ミリの大きな岩石も破碎できる破碎機。

嵩上げエリアへ土砂を運ぶコンベア設備



長距離ベルトコンベア

土砂を山から嵩上げエリアへ運ぶ設備。

Q 中長期の取り組みについて お聞かせください。

国内の復興関連需要は今後も複数年は底堅く推移することが予想されます。当社はこうした復興需要を確実に成果に結びつけるとともに、地震に備える国土強靱化計画や老朽化インフラの設備更新などに伴う公共事業にも様々な形で貢献できると考えています。更に東京オリンピック開催が決定されたことや、リニア新幹線や整備新幹線の建設工事も今後予定されていることから、当面国内は当社の機械事業において底堅い市況が続くとみています。

Q 海外戦略についてはいかがでしょうか。

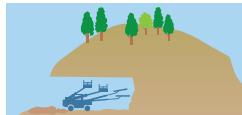
現在停滞気味の資源国や新興国などの鉱山開発やインフラ整備がいずれ復調してくると予想され、需要回復時に即応できるよう営業拠点の充実や顧客の囲い込みなど、営業展開により積極的に取り組んでいきます。

具体的には、海外売上比率が高いロックドリル事業は、特に東南アジア、南アフリカ、中南米の中規模鉱山、セメント各社、ゼネコンをターゲットに油圧クローラドリルの戦略機を拡販していきます。そのほか、油圧ブレーカや鉱山用ジャンボにも注力していきます。ユニック事業は、東南アジアやロシア向けにユニッククレーンの展開を推進するほか、自走して狭い所に入り作業ができるミニクローラクレーンをヨーロッパ同様に用途開拓を進めながら各地へ販売強化していきます。

インフラ整備で使用される製品

トンネルドリルジャンボ

復興道路やリニア新幹線などのトンネル工事で活躍が期待されます。



橋梁

復興関連や国土強靱化計画に伴い橋梁工事も見込まれます。



油圧クローラドリル及び油圧ブレーカ

セメントやコンクリートの原料となる石灰石や砕石を採掘する現場で使用されます。



ユニッククレーン

建設資材の運搬や荷降ろし作業で使用されます。



Q

素材事業についての取り組みをお聞かせください。

次の柱となる新素材開発と事業化に向けて取り組んでいます。既に電子材料事業のコイル製品は同事業の新たな柱として育ちつつあり、今後プラグインハイブリッド車 (PHV) やEV、燃料電池車をはじめとするエコカーを筆頭に、自動車の電子制御化の需要増とともに大きな躍進が期待されています。そのほかにも、引き続き窒化ガリウム (GaN) 基板や熱電変換材料、LuAG 結晶やGAGG 結晶といったシンチレータ結晶の応用展開など開発を進め、事業化を推進していきます。

次なる柱として期待される素材製品

コイル製品

プラグインハイブリッド車 (PHV) やEV、燃料電池車などのエコカーを筆頭に、車の電子制御に不可欠な材料として、ますます需要が高まると予想されます。



GAGG 結晶

ガンマ線検出能力に優れたシンチレータ結晶で、原発事故後の今も社会問題となっている放射線測定のために必要に応えるため、用途開発を進めています。



Q

新社長として株主の皆様へメッセージをお願いします。

2013年6月27日の株主総会後の取締役会にて正式に代表取締役社長に就任いたしました。今後は代表取締役会長に就任しました相馬信義とともに、当社グループの企業価値の更なる向上と発展に努めていきたいと考えています。その過程で必要に応じて流動的に路線の見直しも行き、新しい視点に立った経営計画の策定や、既存のやり方の変革を成し遂げていきたいと考えています。

株主の皆様には、常日頃絶大なるご支援、ご鞭撻を賜っていることに感謝申し上げますとともに、引き続きご理解とご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

Machinery

産業機械事業



前年度に受注した震災被災地における高台移転工事関連の破砕・運搬設備については出来高に対応する売上を計上しました。また、粉砕機などの一般産業機械も順調で増収となりました。

開発機械事業

(ロックドリル)



国内は、復興需要などにより油圧ブレーカを中心に売上を伸ばすことができました。海外は、円安効果を主因に欧州、北米向けで増収となりましたが、中国の景気減速や世界的な資源価格の低迷により、全般的に需要は低調で出荷台数は減少しました。

Material

金属事業



電気銅の販売量は48,093トン(対前年同期比579トン減)となりました。金属事業の売上高は円安の進行を主因として増収となりました。

電子材料事業

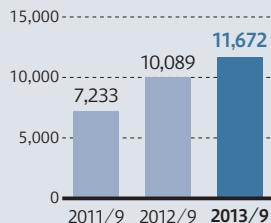


原発事故の風評被害及び半導体不況による苦戦が続いていますが、主力製品のうち高純度金属ヒ素で一時的な回復が見られました。

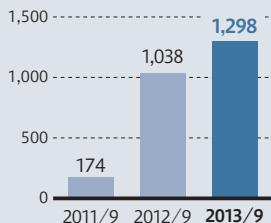
ユニック事業



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)

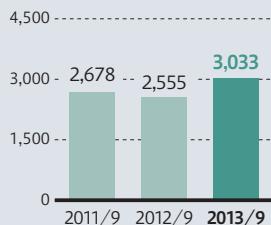


国内普通トラック登録台数は政府による経済対策の効果などにより高水準を維持し、復興需要もあってユニッククレーンの売上は大きく伸びました。また、輸出もミニ・クローラークレーンの出荷増と円安により増収となりました。

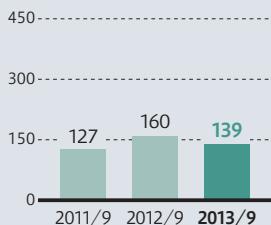
化成品事業



売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



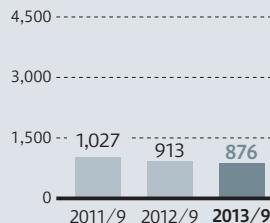
亜酸化銅は主要用途である船底塗料の省エネタイプ向け需要が伸びたほか、酸化チタンの売上も増加し増収となりました。

Others

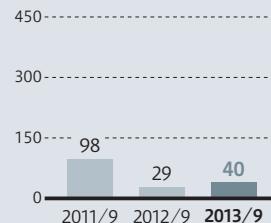


不動産・その他

売上高 (百万円)

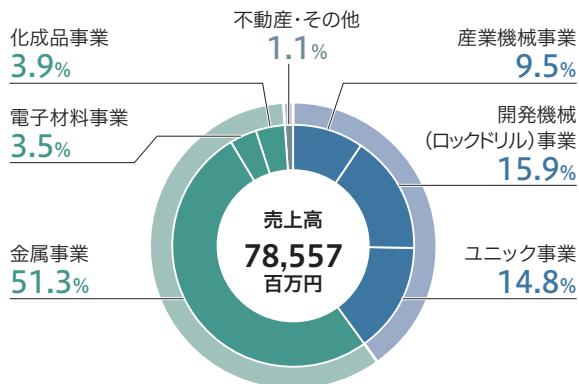


営業利益 (百万円)



不動産事業は、大阪地区の賃貸ビルの空室率が依然高い水準で推移し売上は低迷しました。なお、東京での日本橋室町東地区開発プロジェクトは、2014年3月の開業に向け順調に進んでいます。

売上高の事業部門別構成比



■ 第2四半期(中間) ■ 通期

売上高(連結)

785億円

(億円)

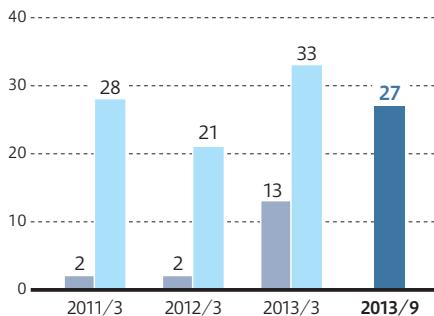


燃料及び塗料事業から撤退したことを主因として減収となり、売上高は785億57百万円(対前年同期比47億33百万円減)となりました。

営業利益(連結)

27億円

(億円)



産業機械、ユニック及び金属事業などが増益となり、営業利益は27億69百万円(対前年同期比14億22百万円増)となりました。

経常利益(連結)

24億円

(億円)



為替差益など営業外収支が改善したことにより、経常利益は24億68百万円(対前年同期比21億30百万円増)となりました。

純利益(連結)

12億円

(億円)

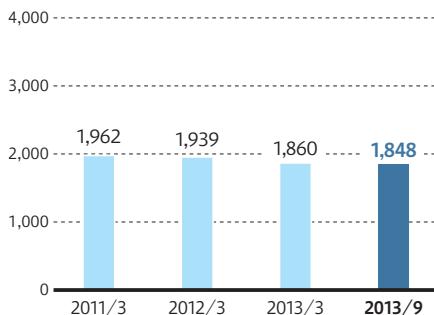


特別利益には受取補償金他8億15百万円、特別損失には減損損失他2億22百万円を計上した結果、四半期純利益は12億56百万円(前年同期は1億13百万円の損失)となりました。

総資産(連結)

1,848億円

(億円)

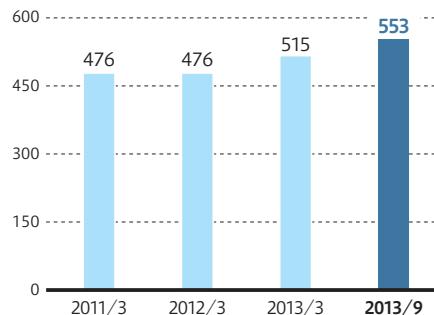


主として原材料及び貯蔵品、受取手形及び売掛金の減少により、総資産は1,848億1百万円(前連結会計年度末より12億75百万円減)となりました。

純資産(連結)

553億円

(億円)



その他有価証券評価差額金の増加などにより、純資産は553億68百万円(前連結会計年度末より38億61百万円増)となりました。

■ 会社概要

古河機械金属株式会社 FURUKAWA CO.,LTD.

創 業 1875 (明治8)年8月
 設 立 1918 (大正7)年4月
 資 本 金 282億818万円
 従業員数 2,418人(連結)
 本 社 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)
 電話 (03)3212-6570

取締役及び監査役

代表取締役会長 相馬 信義
 代表取締役社長 宮川 尚久
 専務取締役 座間 学
 常務取締役 中村 晋
 常務取締役 松本 敏雄
 社外取締役 吉田 政雄
 取締役 大田 彰則
 取締役 岩田 穂
 常勤監査役 江本 善仁
 常勤監査役 幸崎 雅弥
 社外監査役 石原 民樹
 社外監査役 友常 信之
 社外監査役 初瀬 良治

執行役員

専務執行役員 座間 学
 常務執行役員 中村 晋
 常務執行役員 松本 敏雄
 上級執行役員 大田 彰則
 上級執行役員 岩田 穂
 上級執行役員 市村 謙二
 上級執行役員 渡邊 修
 上級執行役員 猿橋 三郎
 執行役員 渡邊 泰史
 執行役員 松戸 茂夫
 執行役員 三村 清仁
 執行役員 加藤 直樹
 執行役員 池部 清彦
 執行役員 久野 佳成

古河機械金属グループ

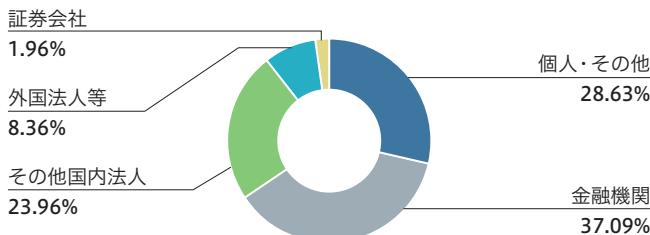
機械事業	産業機械事業	古河産機システムズ(株)
	開発機械事業	古河ロックドリル(株)
	ユニック事業	古河ユニック(株)
素材事業	金属事業	古河メタルリソース(株)
	電子材料事業	古河電子(株)
	化成品事業	古河ケミカルズ(株)
その他事業	不動産事業・その他	古河機械金属(株)

■ 株式の状況

株式

発行可能株式総数	800,000,000 株
発行済株式の総数	404,455,680 株
株主総数	27,942 名

株式所有者別分布の状況



大株主 (上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	39,832	9.84
朝日生命保険相互会社	27,923	6.90
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	26,403	6.52
清和総合建物株式会社	15,034	3.71
株式会社損害保険ジャパン	12,429	3.07
富士通株式会社	9,617	2.37
古河電気工業株式会社	8,777	2.17
富士電機株式会社	8,620	2.13
横浜ゴム株式会社	8,510	2.10
中央不動産株式会社	8,169	2.01

株価の推移



株 主 メ モ

- **本社**
〒100-8370 東京都千代田区丸の内二丁目2番3号
電話 (03)3212-6561 (法務部)
- **事業年度の末日** 3月31日
- **定時株主総会** 6月
- **定時株主総会の基準日** 3月31日
- **期末配当の基準日** 3月31日
中間配当を実施するときの基準日は9月30日
- **公告掲載のホームページ** <http://www.furukawakk.co.jp>
(ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。)
- **単元株式数** 1,000 株
- **株主名簿管理人**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- **特別口座の口座管理機関**
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
- **郵便物送付先及び各種お問合せ先**
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話 (0120)782-031 (フリーダイヤル)

お知らせ

- **住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について**
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
なお、証券会社に口座のない株主様につきましては、当社が特別口座を開設し管理していますので、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
- **未払配当金の支払いについて**
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

WebサイトでもIR情報をご覧ください！
株主・投資家情報ページ
<http://www.furukawakk.co.jp/ir/>



表紙の写真

「丸の内キッズジャンボリー 2013」に出展しました！



会場には乗車可能な実機を展示

子ども向け大型イベント「丸の内キッズジャンボリー 2013」に、古河機械金属グループとして初めて出展しました。

イベントで配布したパンフレット

東京国際フォーラムで2013年8月12～14日まで開催されたこのイベントは、お盆を都内で過ごすファミリー向けに企画され、連日4万人を越す人出で賑わいました。当社グループはこのイベントにブースを出展し、実機として「油圧クローラドリル」と「ミニ・クローラクレーン」「ユニッククレーン」を展示。3日間で約2,100人の子どもたちが訪れ、普段見ることができないマシンに乗車し、たくさん笑顔を振りまいてくれました。また、メディアの取材も入り、13日にはTOKYO FMで中継されました。

配布したパンフレットの詳細はこちらをご覧ください
<http://www.furukawakk.co.jp/fkkplanet/pdf/flyer1308.pdf>



FURUKAWA CO.,LTD.

東京都千代田区丸の内二丁目2番3号(丸の内仲通りビル)
電話 (03)3212-6570
<http://www.furukawakk.co.jp>

